

12 学習評価

学習評価とは、日々の授業の下で児童生徒の学習状況进行评估することです。評定のための評価だけでなく、授業改善のための評価（児童生徒の習熟状況の把握）を行うことが重要です。

1 学習評価の基本的な方向性

- (1) 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- (2) 教師の授業改善につながるものにしていくこと

ポイントは…

「指導と評価の一体化」!



P「指導計画の作成」

- ・1時間ごとの目標、単元を通しての目標を明確化する
- ・評価規準、評価方法、評価場面等を工夫する
- ・つまずきが予想される場面での支援策を準備する

D「授業の実施」

- ・学習意欲を喚起する手立てを工夫する
- ・児童生徒が考え、判断し、表現する場面を設定する
- ・学習の振り返りをする場面を設定する

A「授業・指導計画の改善」

- ・「評価」から得た課題や成果をもとに、授業改善を図る
- ・目標まで到達していない学習内容については、補習や復習などの支援策を講じる

C「評価」

- 児童生徒の目標の達成状況 □学習活動の内容
- 評価規準・評価基準・評価場面・評価方法の適切さ
- 時間配分 □効果的な教材・教具の活用 …など

「指導と評価の一体化」には、『PDCAサイクル』を効果的に機能させることが重要です。児童生徒への評価と、教師自身の授業の評価を適切に行い、授業改善に繋げてください。そしてその改善により、児童生徒の学力向上を実現しましょう!



2 観点別学習状況の評価

	評価の視点	評価・授業改善の工夫
知識・技能	○個別の知識及び技能の習得状況について評価する	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決につながる知識・技能を身に付けさせる ・ペーパーテストだけでなく、パフォーマンステスト等を取り入れて評価する ・指導方法の工夫や、家庭学習の充実を図り、知識・技能の確実な習得を図る
表現 思考・判断・	○各教科等の「見方・考え方」を働かせ、知識及び技能を活用して課題解決に必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する	<ul style="list-style-type: none"> ・論述やレポートの作成、プレゼン、グループでの話し合い、作品の制作や表現、鑑賞等の多様な活動を取り入れる ・各教科における「思考力・判断力・表現力」を明確にし、単元計画で「思考力・判断力・表現力」を評価する場面を設定する
取り組む態度 主体的に学習に	○課題解決や目標達成に向け、「粘り強く取り組もうとする側面」と「自らの学びを調整しようとする側面」の意思的な側面を評価する	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートやレポート等における記述、行動観察、授業中の発表など、多角的・多面的に評価する ・評価の視点を児童生徒とも共有し、効果的な「振り返り」を行って評価する ※発言の回数や、提出物の有無等で評価しない

3 学力調査の活用

児童生徒の学力の変容や、授業を含む教育活動の課題と成果は、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果からも見取ることができます。調査結果を各校で分析し、授業や学力向上の取組の改善、個別の支援の充実に役立ててください。